

人のぬくもりと  
ふれあいが奏でる躍動のまち  
丹波高原文化の郷●京丹波

# 広報 京丹波

KYOTAMBA

NO.64  
2月号

2011年2月15日発行

多くの祝福を受け  
新たな人生を歩みだす





今月の表紙

1月9日、和知ふれあいセンターで行われた「成人式」。新成人たちは、恩師や多くの人たちからの温かい祝福を心に刻み、夢と希望に向かって歩みだしました。(関連記事を15ページに掲載)



## No.64 CONTENTS

- 2 健診結果から見る京丹波町の健康状況
- 6 田舎暮らしをサポートする「空き家情報バンク」
- 8 生活交通のあり方について考える「交通手段確保に関する懇話会」が発足
- 9 Dr's Message いきいき健康術
- 10 2010年世界農林業センサスの結果は「農林業経営体が14.2%減少」
- 12 **FLASH** KYOTAMBA TOWN NEWS 2011
  - 無火災の完遂を誓う
    - 消防団出初式
  - 京丹波町病院が全国で68件目の認定施設に
    - 地域包括医療・ケア認定
  - 新年の門出を盛大に祝う
    - 新春互礼会
  - 文化財を火災から守るために
    - 文化財防火訓練
  - 京都丹波ブランドで南丹地域をPR
    - 「明日の京都丹波」を考える懇談会
  - 6世紀初頭の円墳や埋葬施設を確認
    - 塩谷南古墳群発掘調査結果
  - 自分自身の良さを見つけて楽しい人生を
    - ぎらりフォーラム2011
  - 決意新たに成人としての一歩踏み出す
    - 成人式
  - ウシの生態から食育と生命の尊さを学ぶ
    - パートナーズスクール事業
- 16 シリーズ 地元で採れる旬の食材を使った料理レシピ

### 【参考】健診にかかる経費

健診経費 (一人当たり)	金額
特定健診	7,420円
基本健診	7,210円
胃がん検診	3,990円
大腸がん検診	840円
結核・肺がん検診	1,397円
子宮がん検診	—
検診車	4,368円
医療機関 (額部)	7,172円
(体部)	5,460円
乳がん検診	—
視触診	3,360円
マンモグラフィ (一方向)	4,200円
(二方向)	7,350円
前立腺がん検診	1,575円
成人歯科健診	3,200円
肝炎ウイルス検査	2,624円

\*平成22年度分

### がん検診などの受診状況

(単位：人、%)

	受診者数			要精検者数			要精検受診者数 (22年度)	要精検受診率 (22年度)	
	22年度	21年度	増減	22年度	21年度	増減			
がん検診	胃がん検診	1,366	1,387	△21	243	257	△14	174	71.6%
	大腸がん検診	2,530	2,586	△56	181	169	12	125	69.1%
	肺がん検診	3,004	3,031	△27	54	63	△9	48	88.9%
	子宮がん検診	1,529	1,534	△5	14	16	△2	—	—
	検診車	1,356	1,358	△2	9	—	—	8	88.9%
	医療機関	173	176	△3	5	16	△2	—	—
	乳がん検診	1,689	1,723	△34	78	67	11	70	89.7%
	視触診	1,038	1,142	△104	40	29	11	33	82.5%
	マンモグラフィ	651	581	70	38	38	0	37	97.4%
	前立腺がん検診	919	874	45	59	60	△1	46	78.0%
その他	成人歯科健診	210	230	△20	187	195	△8	—	—
	肝炎ウイルス検査	129	103	26	2	2	0	1	50.0%

\*子宮がん検診(医療機関)の要精検受診者数は集計中のため「—」としています。 ※平成23年1月4日現在の数値

京丹波町では、町民のみなさんの健康を守るために特定健康診査・基本健康診査(健康診査)や各種がん検診などを毎年実施し、疾病の予防や早期発見に努めています。今回、平成二十二年度の受診結果や疾病状況などをお知らせしますので、今後の健康管理に役立てていただくとともに、来年度の健(検)診や健康相談などへの積極的な参加につなげてください。

### 検診受診でがん対策を

国内における死亡原因を見ると、昭和五十六年以降は「がん」が毎年二位を占めています。本町も合併した平成十七年度から同様の結果となっており、国や府と連携してがん対策を重点とした検診を行なっています。

全国的な取り組みとしては、女性特有のがん検診推進事業として昨年度から乳がん・子宮がん検診を実施し受診率向上に努めるとともに、平成二十三年度には働く世代の「大腸がんの節目検診」(四十歳、四十五歳、五十歳、五十五歳、六十歳)の導入を予定しています。

本町の独自施策としては、がんは早期発見・早期治療で完治する確立が高くなることから、すべての検診を無料化し、受診しやすい環境づくりに努めています。(参考「資料参照」)

ほかにも、幅広い年齢の方に受診していただくように、対象年齢の引き下げや日曜健診の実施などに取り組んでいます。

がん検診の結果を見ると、前年度より、乳がん(マンモグラフィ)で七十人、前立腺がんで四十五人受診者数が増加していますが、胃がん、大腸がん、肺がんなどは減少傾向にあります。

また、要精密検査(要精検)と判定された方の受診割合を見ると、前立腺がんが七八%で昨年度より一四・七ポイントの増、肺がんが八八・九%で二・七ポイントの増、大腸がんが六九・二%で一・一ポイントの増となり、すべての検診で昨年度より増加しました。

がん検診の目的は、がんの早期発見・早期治療です。要精検と判定された方には精密検査を受

### 生活習慣改善でがん予防を

がんは生活習慣病の一つで慢性疾患といえます。食事に注意することで三割、禁煙で三割のがんを防ぐことができると言われています。日常生活に気を付けてがん予防に努めるとともに、次のことを実践しましょう。

**【がん予防の十二か条】**

- 第一条 バランスのとれた食事をする
- 第二条 毎日、変化のある食生活をする
- 第三条 食べすぎを避け、脂肪を控える
- 第四条 お酒はほどほどにする
- 第五条 タバコは吸わない
- 第六条 食べ物から定量のビタミンと繊維質をとる
- 第七条 塩辛いものは少なめに摂り、熱いものは冷ましてから食べる
- 第八条 焦げた部分は避ける
- 第九条 カビの生えたものは食べない
- 第十条 日光に当たり過ぎない
- 第十一条 適度にスポーツをする
- 第十二条 身体をきれいにする



けていただくよう、受診勧奨を積極的に行ってください。早めの治療に結び付けてください。

特定保健指導実施状況 (表3)

(単位:人、%)

	対象者			受講者			受講率(%)	
	22年度	21年度	増減	22年度	21年度	増減	22年度	21年度
動機付け支援	200	198	2	69	14	55	34.5%	7.1%
積極的支援	63	69	△6	4	8	△4	6.3%	11.6%
計	263	267	△4	73	22	51	27.8%	8.2%

健診結果返しの状況 (表4)

(単位:人、会場)

	22年度	21年度	増減
健診結果報告会	—	—	—
参加者数	2,685	2,732	△47
会場数	97(夜間2回含む)	94(夜間4回含む)	3
保健センター来所	366	360	6
訪問、家族手渡し	854	855	△1
その他	274	252	22
計	4,179	4,199	△20

\*「計」には、健診結果報告会の会場数は含みません。

特定保健指導では、生活習慣の改善に向けた目標を立て、保健師と栄養士が六か月間一緒に相談をしながら改善を図ります。今年度は、動機付け支援を健診結果返しと同時に実施することで二百人中、六十九人(三四・五%)と多くの方に受講いただきました。しかし、積極的支援は六十三人中、四人(六・三%)にとどまり受講者が増えていない状況です。(「表3」参照)

生活習慣を改善することは大変難しいことですが、対象となられた方は特定保健指導を受講いただき、生活習慣の改善に努めてください。

受診された方と直接出会い、そして健診結果に基づいた適切な指導を行うために、保健師が集落を巡回して結果をお知らせする「健診結果報告会」を、昨年度に引き続き保健活動の重点施策として実施しました。今回は、昨年度より三会場増やした九十七会場で開催し、二千六百八十五人の方に参加いただきました。(「表4」参照)

### 適切な指導を行う 健診結果報告会の実施

来年度も、過去の検査結果を見ながら、どのように変化しているのか、何に気を付けて生活すれば良いのかなど、今後の生活に役立てる相談の場として開催するとともに、健康相談や健康教育、健康講座なども計画しますので、ぜひご参加ください。

### 健康診査で年に一度は 体の点検を

受診率の向上を目指して昨年度から日曜健診を実施しましたが、七十四歳までの受診者数は一千八百八十五人で五人減少し、七十五歳以上の受診者数も二十五人減少したため、全体で三十人の減少となりました。(「表1」参照)

検査項目としては、「貧血」を新たに追加する



健康相談で認知症予防についての話を聞く参加者(豊田集会所・豊田)

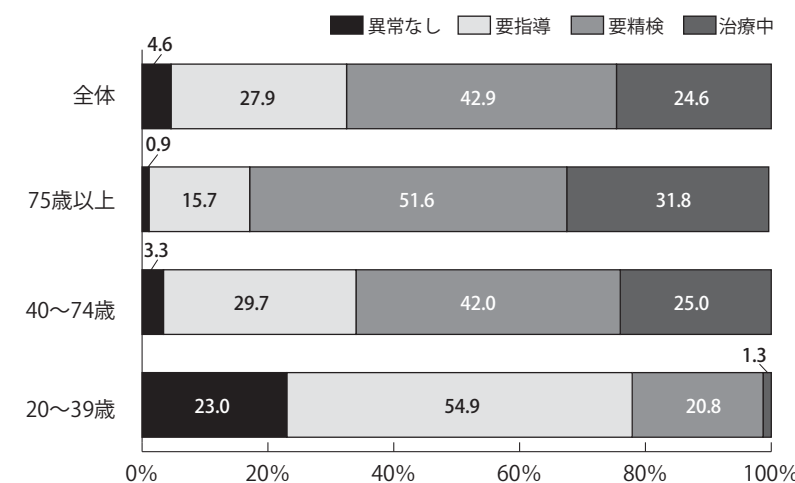
健康診査の受診者数 (表1)

(単位:人)

	受診者数		
	22年度	21年度	増減
特定健康診査(40~74歳)	1,577	1,580	△3
基本健康診査	1,281	1,308	△27
20~39歳	308	310	△2
75歳以上	973	998	△25
計	2,858	2,888	△30

※平成23年1月4日現在の数値

健康診査の年代別判定結果 (表2)



### メタボリック シンドローム を予防しよう

特定健診の結果、メタボリックシンドローム(内臓脂肪型肥満)と診断された方は、特定保健指導の対象となります。

本町では、二月から三月にかけて、平成二十三年の健康診査や各種がん検診などの申込受付を行います。対象年齢は異なりますが、自分の年齢で受けられることのできる健(検)診はすべて申込みいただき、健康管理に役立ててください。なお、**二十三年度も健(検)診は無料**で行いますので、みなさん、ぜひ受診してください。

### 平成二十三年度の健診も無料でを行います

用語説明

- \* 動機づけ支援:メタボリック予備軍。1回の面接指導を行い半年後に評価する。
- \* 積極的支援:メタボリックリスクの高い軍。6か月間にわたって面接や電話などで継続的に支援する。

【問】保健福祉課  
☎86-1800



## 空き家登録の現状

空き家バンクは昨年12月から取り組みを開始し、現在では登録物件が4件、内1件は成約済みとなっています。

空き家バンクで大切なのは、できるだけ多くの方から空き家情報を登録いただき、定住希望者に対して多くの選択肢を提供することです。

空き家は、年数が経つにつれて傷みが激しくなり、利用しにくくなっていきます。空き家の所有者で対応に困っている方は、情報をお寄せください。

## 成立第1号の方々にインタビュー



広野に定住が決まった

もりした かつ ひと まさ よ  
森下克人さん・雅代さん夫妻

40坪程度の畑を借りて農作物を作る中で、手をかければかけた分の成果が得られ、努力が結果に結びつくことに魅力を感じ、新規就農を目指して家族5人で移住を計画しました。

就農支援に熱心な自治体を探して京都府に相談したところ、京丹波町を紹介してもらい、空き家バンクに登録されている西村さんの家を見て一目で気に入り移住先に決めました。

空き家バンク制度は、売主や借主をはじめ集落の方々との温かい交流が利用当初よりあり、移住と同時に孤立に陥ることが避けられる非常に優れた制度だと思います。

これから京丹波町で暮らすことになりましたが、地元の方々とのつきあいを大切にしながら農業に励んでいきたいと思っておりますので、みなさんよろしくお願ひいたします。



空き家所有者

にしむら まさひろ  
西村正宏さん(本庄)

現在は本庄に住んでいますが、広野にも家と農地があり、年を重ねるごとに維持管理に不安を感じてきたことから、行政に相談して空き家バンクに登録しました。

家が老朽化したり、農地が荒廃したりすると地域の人に迷惑がかかるので、農地も含めて使ってもらえる人を探していたところ、町から新規就農を目標に掲げる森下さんを紹介いただき、話が上手くまとまってうれしく思います。

今後も制度を利用して空き家の有効活用を図ることで、地域活性化につながることを期待しています。

新規就農と田舎暮らしを支援する

## 田舎暮らしナビゲーター

本町では、産業振興課の栗林英治課長補佐と小原直也主査が京都府から田舎暮らしナビゲーターの任命を受け、空き家バンクをはじめ、新規就農希望者への就農相談や就農計画づくり、京都府担い手養成実践農場整備支援事業による就農研修支援など、積極的な支援を行っています。新規就農や田舎暮らしに関する相談があれば、お気軽にご相談ください。

【問】産業振興課 ☎82-3808



田舎暮らしをサポートする

# 「空き家情報バンク」



京丹波町での定住や、新規就農などを希望される方を支援するため、町内にある空き家を有効活用する「空き家情報バンク制度」(以下「空き家バンク」)を始めました。空き家の所有者と定住希望者を結び付け、地域活性化を図る取り組みを、ぜひご活用ください。



定住希望者と  
空き家所有者を結ぶ  
取り組み

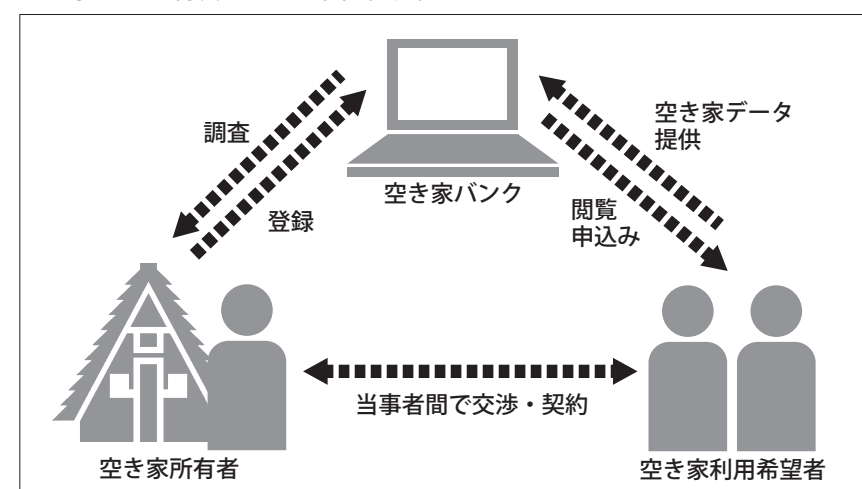
近年、田舎での暮らしや新規就農を希望する人が増加傾向にあります。定住する際に問題となるのが住宅の確保です。実際に、本町で定住を希望されたとしても、家を新築するか、中古住宅を購入するかの選択肢が少ないため、投資費用の面などからあきらめる方が多くあります。一方、過疎化が進む本町では利用されていない空き家が増加傾向にあり、所有者が維持管理や活用方法などを模索されているとともに、地域においても切実な課題となっています。そのような現状を踏まえ、町内の空き家の有効活用や定住促進による地域活性化を図るために取り組んでいるのが「空き家バンク」です。空き家バンクでは、賃貸借または売買を希望する所有者から物件情報を登録いただき、町がそれらの情報を集約して情報発信することで、所有者は空き家の活用方法を見出すことができ、定住希望者は新築と中古住宅購入を含めた多様な選択肢の中から住宅確保を考慮することができます。



空き家バンク  
の仕組み

空き家バンクの仕組みとしては、所有者が物件の概要(構造、床面積、建設時期など)やライフライン(水道、電気など)の状況、売却や賃貸の金額などを登録カードに記入して提出した後、町が登録内容に基づいて調査・登録し、定住希望者に情報提供します。そして、定住希望者が提供し

空き家バンク制度イメージ図(表1)



た情報を見て、条件が合えば、当事者間で交渉や契約を行うというものです。(表1)参照) この取り組みで注意いただきたいのは、町は所有者に登録いただいた空き家情報を発信するだけで、民間業者のように住宅のあっせんや成立までの交渉・契約については直接関与しないことです。個人の所有物の維持管理に対して町が責任を持つことはできませんので、所有者と定住希望者が直接話し合い、お互いの思いや条件などを確かめてもらうことが大切です。

# いきいき健康術 第42回

生活交通のあり方について考える

## 「交通手段確保に関する懇話会」が発足

路線バスを中心とした生活交通の維持と新しいサービスの提供について考える「京丹波町交通手段確保に関する懇話会」(以下「懇話会」)が発足し、2月1日に役場議場で初会合を開催。地域の实情に即した公共交通網の構築に向けた取り組みがスタートしました。



初会合であいさつをする中西会長(役場議場・蒲生)

懇話会は、町議会議員や団体の代表者、学識経験者などの十四人で組織。初会合では、寺尾豊爾町長が委員に委嘱状を交付した後、互選により、会長に中西和之さん、副会長に山上幸二さんを選出。続いて、寺尾町長が「住民が安心して利用できる運行サービスの実現に向け、生活交通のあり方とデマンドバスをはじめとする新しいサービスの提供について調査・研究を重ねてくださいます」と、中西会長に諮問書を手渡しました。

協議に入ると、委員らは町営バスの運行状況や外出支援サービスの実施状況など町内の交通手段の現状について事務局から説明を受け、課題や改善点などを話し合いました。

今後は、より良い生活交通のあり方を協議するために、月二回程度のペースで会議を開き、十月を目途に意見書をとりまとめ提出される予定です。

■懇話会委員 ※敬称略

会長

中西和之(町区長会長)

副会長

山上幸二(町老人クラブ連合会長)

委員

猪井博登(大阪大学大学院助教)

関 正典(府交通政策課長)

梅原好範(町議会議員)

東まさ子(町議会議員)

水嶋正治(町区長副会長)

吉田 昭(町区長副会長)

一谷静夫(町身体障害者福祉会長)

桐野 正則(町社会福祉協議会事務局長)

西村 恵美子(町婦人会長)

十倉 一昭(教育委員長)

川本 康博(京都タクシー株式会社代表取締役)

柘宜 和之(京阪京都交通株式会社代表取締役社長)

### 主な公共交通の現況

■町営バス：町内全域を網羅するように十一路線で運行。スクールバス機能を中心とし、マイカーの普及などから一般乗客数が極めて少ない状況。

■鉄道：JR山陰本線が運行されており、町内に四駅(下山、和知、安栖里、立木)を設置。和知駅は和知駅振興会により乗車券販売などが行われているが、ほかは無入駅。

■民間バス：西日本JRバスが国道九号を運行。

## 『禁煙してみまじょう』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は和知診療所の土井たかし先生。疾病などの予防につながる禁煙についてのお話です。

### 禁煙

煙は多くの疾病や死亡の原因の中で防ぐことのできる単一で最大のものであり、最も確実に重篤な疾病や死亡を減らすことのできる方法です。昨年には値上げもあり、家計にも優しくないとはいえない機会にやめてみませんか。卒煙(喫煙を卒業)までには大変苦しい時期もありますが、コツがあります。

### あかるくやめよう

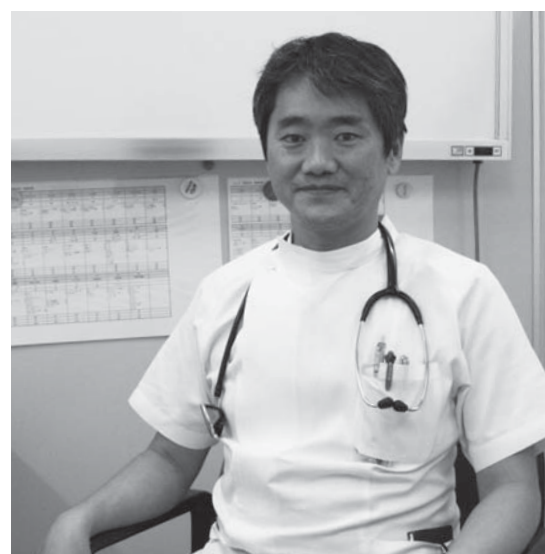
卒煙で息切れもなくなり、元気になり、お肌もきれいになり、お金も貯まります。楽しい事を考えてチャレンジしましょう。

### ニコチンをやめよう

本数を減らしても、深く、最後まで吸うため、血中のニコチン濃度は減りません。日付を決めて、たばこ、ライター、灰皿を一気に捨ててしましましょう。

### うつらうつらやめよう

じっとしていると、ついたばこに手が伸びます。吸いたいなど思ったら、歩いたり、体操したりして、体を動かしましょう。



土井たかし先生(和知診療所)

### えんを結ぶとびやめよう

一人ががんばるのではなく、家族、医師、看護師、保健師、薬剤師など、いろんな人に協力してもらいましょう。中でも家族の応援は一番の力です。禁煙外来もあります。

### おきみがこいばいばい

「本だけなら…」で失敗した場合など、失敗するパターンは人によりある程度決まっています。失敗しても「自分にはできない」ではなく、そこから学んで何度も挑戦しましょう。必ずやめられます。

【問】企画政策課 ☎82-3801

# 2010年世界農林業センサスの結果は 「農林業経営体が14.2%減少」

農林業センサスは、わが国の農林業の現状と動向を明らかにすることを目的に、5年ごとに実施されています。

このほど、昨年2月1日現在で行われた「2010年世界農林業センサス」の結果がまとまりましたので、前回調査と比較しながら概要をお知らせします。

## 農林業経営体について

本町の農林業経営体は一千四百六十九経営体で、前回より二百四十三(一四・二%)の減。分野別では、農業経営体が一千二百八十八で二十の減、林業経営体が三百八十五で五十六の減となりました。

経営形態別農林業経営体数では、法人が六十八経営体でわずかな減少にとどまりましたが、非法人は一千三百九十三経営体で二百四十三減少しました。(表1)参照)

## 農業経営体について

### ■就業者の高齢化と雇い入れが増加

農業就業者は一千四百八十五人で、前回より五百五十二人減少。年齢階層別に見ると、六十五歳以上の占める割合が八〇・二%で七・四ポイント増加したことから、平均年齢が七十一・八歳となり、高齢化が進行していることがわかります。(表2)参照)

一方、農業労働力では、常雇いと臨時雇いの実人数が共に増加していることから、経営の大規模化に伴って雇い入れた人数が増加していると考えられます。(表3)参照)

### ■進む農業経営体の大規模化

農業経営体を経営耕地面積規模別に見ると、三ヶ未満が一千二百五十四経営体で前回より二百十七減少したのに対し、三ヶ以上は

三十四経営体で七増加していることから、経営の大規模化がうかがえます。(表4)参照)

経営耕地面積では、借入耕地面積が三百六十二ヶで三十一ヶ増加しており、耕地借入による経営の大規模化が裏付けられています。

なお、耕作放棄地は百三ヶで前回より二十三ヶ増加しました。(表5)参照)

### ■専業・兼業共に農家数が減少

主副業別農家数では、主業農家が九十一戸で二十二戸の減、準主業農家が二百四十三戸で十二戸の増、副業的農家が九百十九戸で二百五戸の減となりました。

専業・兼業別で農家数を見ると、専業農家は二百七十五戸で九十戸の減。兼業農家では、第一種兼業が百七十六戸で三十六戸増加しましたが、第二種兼業が八百二戸で百六十二戸減少したことから、専業・兼業共に減少する結果となりました。(表6)参照)

また、農業経営体を販売金額規模別に見ると、百万円未満(販売なし含む)が一千百一十一経営体で二二の大幅な減少に対し、百万円以上は八の減少にとどまりました。(表7)参照)

## 林業経営体について

林業経営体数は三百八十五経営体で前回より五十六の減。最も多い面積規模は五―十ヶの百十七経営体で、次いで三―五ヶの百五経営体となりました。(表8)参照)

(単位:経営体)

■農林業経営体数など(表1)

	総計	農林業経営体数				経営形態別農林業経営体数						
		農業経営体	うち家族経営体	林業経営体	うち家族経営体	法人	農事組合法人	会社	各種団体	その他の法人	地方公共団体・財産区	非法人
2010年	1,469	1,288	1,255	385	293	68	3	5	48	12	8	1,393
2005年	1,712	1,498	1,472	441	337	69	4	3	44	18	7	1,636
増減	△243	△210	△217	△56	△44	△1	△1	2	4	△6	1	△243

\*農業と林業の両方に重複する経営体があるため、農林業経営体の合計と総計とは一致しません。

■農業労働力(雇用者)(表3) (単位:経営体、人)

	雇い入れた経営体数			実人数		
	常雇い	臨時雇い	合計	常雇い	臨時雇い	
2010年	277	14	274	1,512	70	1,442
2005年	316	22	—	1,033	67	966
増減	△39	△8	—	479	3	476

\*常雇いと臨時雇いの両方に重複する経営体があるため、合計とは一致しません。  
\*2010年と2005年では調査方法が異なります。

■経営耕地面積など(表5) (単位:ha)

	経営耕地面積	うち借入耕地				耕作放棄地
		田	畑	樹園地	樹園地	
2010年	1,132	981	98	54	362	103
2005年	1,173	1,052	77	45	331	80
増減	△41	△71	21	9	31	23

\*四捨五入の関係で、経営耕地面積と田・畑・樹園地の合計は一致しません。

(単位:人)

■年齢別農業就業者(表2)

	計	年齢										平均年齢
		64歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	65~69歳	70歳以上	合計	
2010年	1,485	294	10	19	28	95	142	1,191	209	982	71.8歳	
2005年	2,037	554	95	38	59	163	199	1,483	332	1,151	67.5歳	
増減	△552	△260	△85	△19	△31	△68	△57	△292	△123	△169	4.3歳	

■経営耕地面積規模別経営体数(表4) (単位:経営体)

	計	面積規模									
		0.3ha未満	0.3~0.5ha	0.5~1ha	1~1.5ha	1.5~2ha	2~3ha	3~5ha	5~10ha	10~20ha	合計
2010年	1,288	16	391	610	146	49	42	15	15	4	
2005年	1,498	25	539	662	160	54	31	14	11	2	
増減	△210	△9	△148	△52	△14	△5	11	1	4	2	

\*本町では20ha以上の経営体はありません。

(単位:戸)

■主副業別および専兼業別農家数(表6)

	計	主副業別農家数			専兼業別農家数			
		主業農家	準主業農家	副業的農家	専業農家	兼業農家	第1種兼業	第2種兼業
2010年	1,253	91	243	919	275	978	176	802
2005年	1,469	113	232	1,124	365	1,104	140	964
増減	△216	△22	11	△205	△90	△126	36	△162

(単位:経営体)

■農産物販売金額規模別経営体数(表7)

	計	販売金額								
		販売なし	50万円未満	50~100万	100~500万	500~1,000万	1,000~3,000万	3,000~5,000万	5,000~1億円	1億円以上
2010年	1,288	157	778	176	143	12	9	7	3	3
2005年	1,498	318	773	222	148	11	12	7	5	2
増減	△210	△161	5	△46	△5	1	△3	0	△2	1

(単位:経営体)

■保有山林面積規模別経営体数(表8)

	計	保有山林面積								
		山林なし	3ha未満	3~5ha	5~10ha	10~20ha	20~30ha	30~50ha	50~100ha	100~500ha
2010年	385	1	6	105	117	73	25	23	20	15
2005年	441	2	1	113	137	92	34	21	24	17
増減	△56	△1	5	△8	△20	△19	△9	2	△4	△2

\*本町では500ha以上の経営体はありません。  
\*面積には他府県に保有する山林も含まれます。

## 用語説明

【農業経営体】経営耕地面積三十ヶ以上、またはこれに相当する外形基準を満たす農業生産活動を行う農家や組織。  
【販売農家】経営耕地面積が三十ヶ以上、または農産物販売金額が五十万円以上の農家。  
【常雇い】過去一年間に農業経営のために、年間七か月以上の契約で農業経営体に雇われた者。

【主業農家】農業所得が主(農家所得の五〇%以上が農業所得)で、年間六十日以上農業に従事する六十五歳未満の人がいる農家。  
【準主業農家】農業所得以外が主で、年間六十日以上農業に従事する六十五歳未満の人がいる農家。  
【副業的農家】年間六十日以上農業に従事する六十五歳未満の人がいない農家。  
【耕作放棄地】一年以上作付けせず、数年の間に作付けする考えのない耕地。

# 無 火災の完遂を誓う

## ■消防団出初式

平成二十三年京丹波町消防団出初式が一月九日、グリーンランドみずほで開催され、消防団員や園部消防署員ら約六百三十人が出動しました。



隊列を組んだ分列行進で入場する団員(グリーンランドみずほ・大朴)

式では、団員らが分列行進で入場した後、寺尾豊爾町長の式辞や来賓祝辞、開団、定例表彰・伝達式などを実施。閉式にあたり、梅原好範団長は「町民の尊い生命と貴重な財産を守るといふ消防団に課せられた最大の使命を果たすとともに、地域の中核を担う組織としてまちづくりに積極的に参画し、五年先、十年先の将来像を見据えた活動に取り組みたい」と力強く決意の言葉を述べました。

なお、表彰受賞者は次のみなさんです。(敬称略)

## ■京都府消防協会長表彰

- 功績章／長澤誠(支団長)
- 勤功章／松山征義(分団長)
- 精績章／隅田光郎(分団長)
- 堀 太(同) ▼竹内伸広(同)
- ▼西村正義(同)
- ▼居谷太志(同)
- 精勤章／岩崎篤也(分団長)
- ▼森田浩史(同)
- ▼湊公雄(副分団長)
- ▼和田一男(同)
- ▼梅原義幸(同)
- ▼湊博之(同)
- ▼西垣吉裕(同)
- ▼田端卓史(同)
- ▼竹内知広(同)

- ▼堀正樹(同)
- ▼谷澤利夫(同)
- ▼友金輝幸(同)
- ▼山下泰(同)

## ■京丹波町長二十年勤続表彰

- 丹波支団／出野雅之 ▼溝口久也
- ▼安村英展 ▼小森博之 ▼篠塚淳
- ▼安井信治
- 瑞穂支団／堂本学 ▼豊嶋浩史
- ▼友金幸夫 ▼西村博和
- ▼保田志信 ▼吉田一幸
- ▼西山久司 ▼田中克也
- ▼石田裕明 ▼竹内政彦 ▼谷清文
- ▼上林治 ▼林幸男
- 和知支団／竹内伸広 ▼野口貴史
- ▼梅原伸雄 ▼榎川篤 ▼江本和生
- ▼野間寿久 ▼津田政浩 ▼隅山昇
- ▼渡邊拓憲 ▼十倉隆英
- ▼十倉克也

## ■京丹波町長表彰

- 丹波支団／塩瀬健一 ▼村山幸則
- ▼藤田重樹 ▼溝口克幸
- ▼畑中伴治 ▼須知康幸
- ▼稲葉利与 ▼八木雅憲
- 瑞穂支団／山下泰 ▼前田和彦
- ▼北村和博 ▼平田学 ▼小原直也
- ▼西山直人 ▼山田共夫 ▼中敏則
- ▼畠中寿 ▼田中耕次 ▼畑恭浩
- ▼坂本武 ▼坂本貴之 ▼谷正流
- ▼林喜昭 ▼岡本高幸 ▼山下徹

- ▼室正博 ▼大筆弘至 ▼辻克彦
- ▼今西和寿
- 和知支団／越川尚徳 ▼西村博之
- ▼出野裕和 ▼久保元忍
- ▼原田結城 ▼片山隆
- ▼十倉利公

## ■京丹波町消防団長表彰

- 丹波支団／荻野雅則 ▼田中拓人
- ▼植田英雄
- 瑞穂支団／畠中浩 ▼高畑清宣
- ▼大面治 ▼安井一雄 ▼上林篤
- 和知支団／藤田拓也 ▼梅原浩靖
- ▼森川孝誠 ▼中尾智明
- ▼森孝信



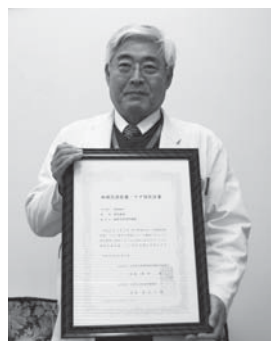
梅原団長の案内によりラッパ隊を閲する寺尾町長ら関係者

# 京 丹波町病院が全国で六十八件目の認定施設に

## ■地域包括医療・ケア認定

京丹波町病院がこのほど、(社)全国国民健康保険診療施設協議会および(社)全国自治体病院協議会から地域包括医療・ケア施設の認定を受けました。

二つの協議会は、保健・医療・福祉・介護サービスを一体的に提供する医療施設として医療の機能向上や職員の意識高揚と資質向上を図ることで、地域住民が安心して利用できる医療機関体制とするなどを目的に、従来の実績などの要件を審査して認定。京丹波町病院は、同協議会に加入する全国一千有余の自治体立病院の



認定証書を手にする京丹波町病院の佐藤院長

中で六十八件目(府内では五件目)の認定施設となりました。認定を受けて、京丹波町病院の佐藤秀一郎院長は「職員のこれまでの努力が認められた証として今回の認定を喜ぶとともに、地域包括医療をさらに前進させるよう、より一層力を合わせてがんばっていきます」と、今後の抱負を交えて話されました。

# 新 年の門出を盛大に祝う

## ■新春互礼会

一月四日、新春互礼会が町中央公民館で行われ、国会議員・府議会議員の来賓をはじめ、町議会議員や行政委員ら約百五十人が参加しました。

互礼会は、多くの関係者が新年を祝う場として毎年実施。式では、寺尾豊爾町長が「合併から五年経過しましたが、『仲が良い町やな』



新年のあいさつをする寺尾町長(町中央公民館・蒲生)

と言ってもらえるよう、今後も町民のみなさんと力を合わせてがんばっていきます」とあいさつした後、来賓祝辞や祝電披露、中西和之区長会長の発声による万歳三唱などが行われ、参加者全員で新しい年の門出を盛大に祝いました。

# 文 化財を火災から守るために

## ■文化財防火訓練

文化財防火訓練が一月二十三日、蔵地内にある大福光寺で行われ、町消防団丹波支団や蔵自警団の団員、園部消防署丹波出張所の署員ら約七十人が参加しました。

この取り組みは、文化財防火デーの取り組みの一環として貴重な文化遺産を火災から守ることを目的に、防火意識の高揚と初期消火活動の強化を目指した実践訓練などを毎年実施。今回は、国指定重要文化財である大福光寺の付近で火災発生との想定のもと、蔵自警団による初期消火訓練、消防団員や消防署員による放水訓練などが行われ、参加者らは迅速での確な消火活動に励んでいました。



小型ポンプを使って初期消火訓練を行う蔵自警団員(大福光寺・下山蔵区内)



連携して放水訓練を行う消防団員と消防署員

訓練終了後には、文化財行政を所管する教育委員会の朝子照夫教育長が「先人が守ってこられた文化財を火災から守るためにも、日ごろから防火活動に努めていただくとともに、非常時には今回の訓練を生かして機敏な対応をお願いします」と話されました。

なお、同訓練以外にも、蔵区には大福光寺や渡邊家住宅など数多くの重要文化財が現存することから、消防団OBらで組織する蔵自警団(昭和二十三年設立)が年二回、文化財を守るための独自訓練を実施されています。

## 京都丹波ブランドで南丹地域をPR

■「明日の京都丹波」を考える懇談会

一月二十日、「明日の京都丹波」を考える懇談会がガレリアかめおかで開催され、京都府南丹振興局長と管内二市一町（亀岡市、南丹市、京丹波町）の首長が会談しました。

懇談会は、同振興局が策定した「明日の京都丹波ビジョン」の実現を目指し、京都丹波をキーワードとした地域づくりを展開するための方針などを確認する場として、今回初めて実施。会議では、次

の三点を共通認識とすることが確認されるとともに、全国的なPR活動では「丹波ブランド」、近畿圏内では「京都丹波ブランド」を使い分けることで、大丹波連携推進協議会との違いを出すよう調整されました。

【確認事項】

●「京都丹波ブランド」を幅広く情報発信するとともに、ブランド戦略の策定と実施に向けた検討組織を立ち上げて取り組みを促進する。



京都丹波をPRする法被を着て握手を交わす南丹市長、亀岡市長、南丹広域振興局長、寺尾町長(右) (ガレリアかめおか・亀岡市)

●今秋に開催する国民文化祭の各市町事業および食文化の祭典「里の実施に向けた相互連携を強化する。」

●「明日の京都丹波」を考える懇談会を定期的に開催する。

## 六世紀初頭の円墳や埋葬施設を確認

■塩谷南古墳群発掘調査結果

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターが一月十三日、塩谷南古墳群で六世紀初頭の築造とみられる円墳一基を確認



確認された直径15mの円墳 (塩谷南古墳群・曽根)

したと発表しました。同センターは、京都縦貫自動車道 丹波綾部道路の建設工事に伴い、昨年十月から約八百平方メートルで発掘調査を実施。見つかった円墳には、頂上部に長

方形の埋葬施設(墓穴)が二基あり、それぞれの構内からは形状の異なる木棺の痕跡を確認。副葬品として、須恵器のつぼ一点、ふたのついた高杯七点、鉄製の剣(長さ九十五センチ)と刀子(長さ十五センチ)、やじり(長さ四・八センチ)などが出土しました。

同センターは、「隣接する塩谷古墳群とほぼ同時期の築造であり、この地域を治めていた有力者が埋葬されていたと考えられる。また、須恵器のつぼを中心に、ふたのついた高杯が取り囲むように掘



出土した状態で置かれたつぼ(直径13cm×高さ16cm)と高杯(直径9~9.5cm×高さ11.5cm)

えられる配列は珍しい」と説明し、十五日には一般の方を対象とした現地説明会を開催しました。

## 決意新たに成人としての一歩踏み出す

■成人式

平成二十三年京丹波町成人式が一月九日、和知ふれあいセンターで行われ、新成人百三十五人(対象者数百七十四人)が出席しました。

式では、寺尾豊爾町長の式辞をはじめ、十倉昭教育委員長から記念品の贈呈、来賓や恩師から祝辞が送られた後、新成人代表の吉田唯さん(細谷)が「恩師が言ってくれた『君は君らしく』の言葉を胸に、自分を偽ることなく信じた道へと進む強い気持ちを持ち続け



新成人を代表して誓いの言葉を述べる吉田さん(和知ふれあいセンター・本庄)

ていくとともに、笑顔と感謝を忘れずに多くの人から愛される成人になります」と、力強く誓いの言葉を述べました。



記念アトラクションを見つめる新成人

また、記念アトラクションとして、京丹波町子ども合唱団と丹波八坂太鼓保存会が美しい歌声と

## ウシの生態から食育と生命の尊さを学ぶ

■パートナーズスクール事業

一月十二日、「パートナーズスクール事業」の二回目の取り組みが町中央公民館で行われ、和知小児童や須知高生徒、京都大の大学院生ら約六十人が参加しました。

今回は、食育や生命に関しての学習をテーマに、ウシの受精から出産までの様子を収めた映像を使って生命の尊さを伝えた後、京都大の院生が「ウシの秘密」と題して講演し、ウシの胃袋に生息し

ている微生物が草を分解して必要な栄養素を作ることで体重が八百キまで成長することなどをわかりやすく解説。続いて、参加者全員で顕微鏡を使って微生物を観察し、種類や働きなどを学びました。

その後、「牛乳を使った食品づくり」として、須知高の生徒がアイスクリームやヨーグルトの作り方を説明。最後に、同校で作られた黒豆きなこアイスに参加者全



顕微鏡を使ってウシの胃袋に生息する微生物を観察する参加者(町中央公民館・蒲生)

員で試食し、地域産物を使った食品の良さを味わいました。

## 自分自身の良さを 見つけて楽しい人生を

■きらりフォーラム二〇一一

「きらりフォーラム二〇一一」(町)京丹波きらりネットワークの会主催が一月十五日、町中央公民館で行われ、約百十人が参加しました。フォーラムでは、コーラス・ボナミが息の合った合唱でオープニングを飾った後、アナウンサーとしても活躍されている僧侶の川村妙慶さんが「私が私であってよかったと思える生き方」と題して講演。川村さんは、「何事も他人と比べて落ち込むのではなく、自分自身の良さを見つけて前向きに生きていくことが人生を楽しむ秘訣です」と、参加者にアドバイスを送りました。

また、会場内には、同会に参画する団体の活動を紹介する写真などが展示され、男女共同参画社会への取り組みの大切さを呼びかけました。



これまでの経験を交えて講演する川村さん(町中央公民館・蒲生)

勇壮な太鼓の響きで式典に華を添え、恩師や保護者らをはじめ集まった多くの人たちで新成人の新たな門出を祝いました。

### 職員の配置

(敬称略)

■退職

・十二月三十一日付  
真狩尚弥(企画政策課 主事)  
一月三十一日付  
米山栄一(京丹波町病院 看護師)

### ご寄附ありがとうございました

ふるさと納税制度により、福岡県小郡市在住の平本二朗さんから「安心・安全なまちづくり役に立ててください」と、百万円の寄附をいただきました。ありがとうございました。

### わたしたちの町

人口	16,630(-11)
男	7,855(-9)
女	8,775(-2)
世帯数	6,448(+4)
2月1日現在 / ( )は前月比	



[シリーズ] 第8回  
食卓の一品に  
どうぞ!!

# 地元で採れる旬の食材を使った料理レシピ

豊かな自然に恵まれた京丹波町では、みず菜やホウレンソウ、伏見とうがらしなど、たくさんの野菜が栽培されています。地域で採れた野菜を地域で消費する「地産地消」の取り組みは、安心・安全な食生活を支える大切なものであるとともに、食を通じて地域の良さを再認識することができます。

このコーナーでは、地産地消の取り組みを推進する食生活改善推進員協議会のみなさんに、地元で採れる旬の食材を使った料理の作り方を紹介していただきます。

今回の料理

## 「大根のいため煮」

【材料(4人分)】

- ◆大根……………400g
- ◆大根菜……………50g
- ◆金時にんじん……………50g
- ◆シイタケ……………50g
- ◆豚赤身薄切り肉……………150g
- ◆油揚げ……………75g

<調味料>

- ◇サラダ油……………小さじ2
- ◇ごま油……………小さじ1
- ◇酒……………大さじ1と1/2
- ◇さとう……………大さじ1
- ◇しょうゆ……………小さじ2
- ◇塩……………少々

1日に必要な野菜の量は300～350g。このメニューでは137.5gの野菜が取れます。



■栄養価(1人分)

エネルギー	たんぱく質	脂質	カルシウム	食物繊維	塩分
202kcal	13.3g	11.4g	121mg	3.0g	0.9g

■作り方

- ①大根とにんじんは皮をむいた後、5cm程度の長さでせん切りにし、軽く塩を振って混ぜ合わせる。
- ②大根菜は色よくゆでてから細かく刻み、水気を絞る。
- ③豚肉は細く切り、油揚げはせん切り、シイタケは薄切りにする。
- ④大根とにんじんがしんなりしたら塩を洗い流し、水気をしっかり絞る。
- ⑤サラダ油とごま油を熱し、豚肉、油揚げ、シイタケの順に入れて炒める。
- ⑥豚肉に火が通ったら大根とにんじんを加え、さとう、しょうゆ、酒を入れて中火でさらに炒める。
- ⑦全体に味が付き汁気がなくなれば、大根菜を加えて混ぜ合わせ、器に盛り付ける。

今回で3回目となる成人式の取材。華やかな装いで友人たちと談笑する姿を見ていると、微笑ましくてうれしい気持ちになります。思い返すと、編集者も20歳を迎えるときは「大人になったら…」といくつか目標を掲げていましたが、いまだに実現できていないことも。あの頃の気持ちを思い出して、気持ちを新たにかんがってみようと思います。(K)

編集後記

優れた消化酵素が豊富な大根の根と緑黄色野菜のエキスであるニンジンには、食物繊維が多く含まれており、体に余分なコレステロールの減少や便秘改善による大腸がん予防に役立ちます。また、豚肉や油揚げなどのたんぱく質食品と一緒に摂取することで栄養バランスも良くなります。冬は根菜類がおいしい季節です。たっぷり食べて寒い時期を乗り越えましょう。

〈次回は六月号に掲載する予定です〉



食生活改善推進員協議会  
丹波支部 山内スミエさん(白土)

一言アドバイス